

平成28年産水稻の収穫量（青森）

— 水稻の10a当たり収量は604kg（前年産に比べ12kg減少）
— 収穫量（子実用）は25万7,300t

1 作付面積

平成28年産水稻の作付面積（子実用）は4万2,600haで、前年産に比べ900haの減少となった。このうち、主食用作付面積は3万6,800haで、前年産に比べ500haの減少となった。

2 作柄概況

水稻10a当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「平年並み」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）が「やや良」で、604kgとなった。

3 収穫量

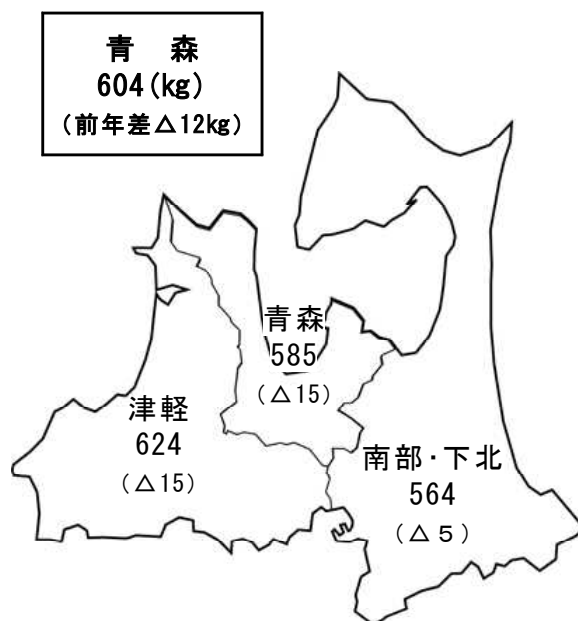
以上の結果、収穫量（子実用）は25万7,300tで、前年産に比べ1万700tの減少となった。このうち、主食用の収穫量は22万2,300tで、前年産に比べ7,500tの減少となった。

4 被害概況

被害量は1万2,700tとなった。

被害種類別にみると、気象被害が1万1,600t（被害総量に占める割合91%）、病害が610t（同5%）、虫害が304t（同2%）となった。

作柄表示地帯別10a当たり収量

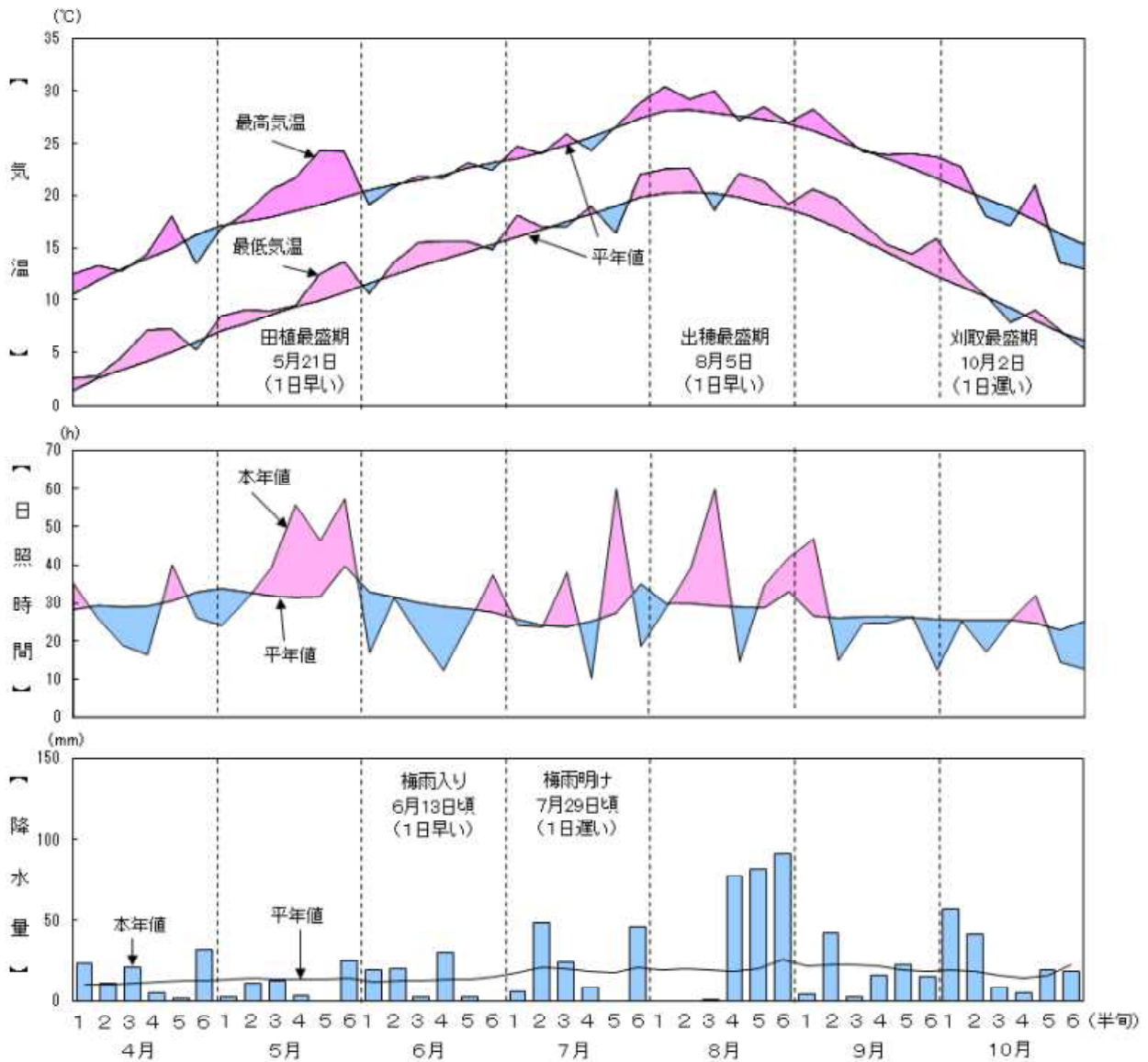


注：（）内の△は、前年産に比べ減少していることを示している。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参 考】

平成28年半旬別気象図(青森)



資料：気象庁ホームページより

注：1 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

2 () 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 青森県拠点 統計チーム
 電話：017-734-5511 内線129
 F A X：017-775-7971